

会員数39のうち31名の参加、6名が委任状提出。94%の出席率



一年間の活動の成果と収支の報告のための総会に出席していただいた会員

定例総会 平成30年度の事業報告

八方原の環境を守る会の平成30年度事業と収支の報告、次年度の計画と予算を審議する総会が4月21日、八方原公民館で行われました。
共同作業に関する部分では、従来の

作業に加えて、後期に農道の清掃除草作業を行いました。延70人以上の参加があり、農道にはびこる草を、除去することができました。今回作業した農道は総延長で1800メートルです。そのため従前より大幅に日当の支払いが増えました。
長寿命化の事業では金原水路の堤体改修を行いました。30年度は国全体では大きな災害が相次ぎ、復旧工事のための予算に多額の費用が必要となりました。そのため、こうした農業整備事業にも予算の縮減がありました。
交付金の10%が削られました。事務委託費が大幅に安くなりましたので、その不足分を何とか賄うことができました。
これらの報告についてもいずれも承認を頂きました。
元号の代わる新年度の活動計画と予算案についても提案されました。新しい体制構想の下で、稲作と畑作の作付けの変更などで交付金が少し変わる可能性があります。従来にも増して活発な活動につながりたいと思います。

作業に加えて、後期に農道の清掃除草作業を行いました。延70人以上の参加があり、農道にはびこる草を、除去することができました。今回作業した農道は総延長で1800メートルです。そのため従前より大幅に日当の支払いが増えました。
長寿命化の事業では金原水路の堤体改修を行いました。30年度は国全体では大きな災害が相次ぎ、復旧工事のための予算に多額の費用が必要となりました。そのため、こうした農業整備事業にも予算の縮減がありました。
交付金の10%が削られました。事務委託費が大幅に安くなりましたので、その不足分を何とか賄うことができました。
これらの報告についてもいずれも承認を頂きました。
元号の代わる新年度の活動計画と予算案についても提案されました。新しい体制構想の下で、稲作と畑作の作付けの変更などで交付金が少し変わる可能性があります。従来にも増して活発な活動につながりたいと思います。

地縁企業のボランティア清掃に感謝

総会の席上、農地外周の道路の清掃が行われたことが分かりました。これは、株式会社亀井組さんが、水路側の除草作業を行われたということでした。
同社の会長が「この地に世話になっている以上、地域に貢献するのは当たり前だ。」と、仕事の合間に、従業員に作業をするように指示をされたことが分かりました。
また「農道清掃をされているが外周までは手が回らないようなので」とのお気遣いも頂いたことが分かりました。
感謝申し上げます。



道路わきの、雑草や堆積した泥が手作業で除去

自治会の構成に新たな「準会員」



自治会活動 大運動会の地区別対抗リレーに出場

自治会運営に欠かせないのは、会員の自治会費です。八方原自治会では平成5年の公民館建設に関して、「認可地縁団体」として法人になっています。その際に会員を、一般の会員と賛助会員に分けています。

一般会員は会費を納め、総会での議決に加わる義務があります。賛助会員は事業所です。会費を納めていただきませんが、総会などへの出席義務はありません。

現在では、地域内に集合住宅が建設されて、50部屋近くになってきました。こうした集合住宅居住者の方にも同様

の会費の納入と、総会への出席義務を定めています。しかし、他地区の会費や総会などの出席について扱いを比較すると、当自治会の対応は少々特異な状況となってきました。

そこで規約を変更して、会員を一般会員と準会員とに分けることにしました。準会員は会費も低額にし、総会などへの出席義務も外すことにしまし

た。自治会への参加は自由意志によるものですから、集合住宅に居住の方でも一般の会員になることもできません。

4月14日の定例自治会総会では、この規約変更について議論が行われ、参加者と自治会執行部のやり取りがありました。

「一般の会員の自治会費の占める割合が40%程度に過ぎないのに、支出の大部分は一般の会員のためという状況は不公平ではないか。」という意見には、そのための規約改正であり準会員の自治会費を現状の700円から

300円に下げることが提案されている。また地域防災の観点から「準会員にの方々に防災の行動などを呼びかける対応はできないか」という質問には、実際のところ集合住宅のどの部屋にどなたが入居しているかは把握できないので、管理会社や管理する所有者の責任で行動していただくほかはないのではないかと答えました。

慎重審議の結果、八方原自治会規約の改正案は可決されました。これにより、集合住宅居住者の自治会費は月額300円となります。

「こいのぼり」を掲げる方法を考える

「屋根より高いこいのぼり」4月の青空に揺らめくこいのぼりは、男の子の成長を願う家庭行事です。

上の写真をご覧ください。直立した

木の棒の先端に滑車を取り付け、こいのぼりを括り付けた竹竿にロープを結び付け、その竿を持ち上げるという山口県ではおなじみのスタイルです。しかし、一般的には下の写真のようにロープに括り付けたこいのぼりをロープで引き上げるやり方の方が多いかもしれません。

島根県の一部では二本の棒の間にこいのぼりを括り付けたロープを渡し、その間をこいのぼりが泳ぐというスタイルを見ることがあります。いずれも、敷地の制限の中でいかに上手に泳がせるか知恵を絞った結果でしょう。

実際には、天候に左右されるし、上げ下ろしは時間がかかるし、楽しいばかりではありません。



竹竿つり上げ式のこいのぼり (原田幸夫さん宅)



アルミポール近代型 (津川さん宅)